

山形市地域公共交通会議

日 時：令和4年11月4日（金）

午前10時～午前11時

会 場：山形市中央公民館 4階 大会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

（1）山形市コミュニティバス高瀬線の運行内容変更について 資料1

4 報告事項

（1）山形市地域公共交通計画の取組について 資料2～資料5

5 その他

6 閉 会

山形市地域公共交通会議 構成員名簿

(敬称略)

所属	職名	氏名	設置要綱上の構成員区分
山形市	企画調整部長	畑口 和久	山形市長
山交バス株式会社	営業部乗合課長	寒河江 晃一	一般乗合旅客自動車運送事業者
山形県バス協会	専務理事	小関 和夫	社団法人山形県バス協会
山形県ハイヤー協会	専務理事	山家 庸彰	山形県ハイヤー協会
山形県ハイヤー・タクシー協会	会長	青木 礼二	山形県ハイヤー・タクシー協会
山形地区ハイヤー協議会	会長	石川 康夫	山形地区ハイヤー協議会
高瀬地区コミュニティバス運行協議会	委員	石山 広義	住民又は利用者の代表
東北運輸局山形運輸支局	首席運輸企画専門官	加藤 知美	東北運輸局山形運輸支局長
山形県交通運輸産業労働組合協議会		欠席	一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体
山形県村山総合支庁総務企画部 総務課連携支援室	連携支援主査	梶原 仁也	山形県村山総合支庁長の 指名する者
国土交通省東北地方整備局 山形河川国道事務所		欠席	道路管理者、山形警察署、学識 経験者その他の交通会議が必要 と認める者
山形県村山総合支庁道路課	道路管理専門員	井上 和俊	
山形市都市整備部道路維持課	総括主幹（兼）課長補佐	齋藤 慎次	
山形警察署交通第一課	交通規制係長	伊藤 浩	
東北芸術工科大学		欠席	

山形市企画調整部企画調整課 交通政策室	室長	大沼 功	事務局
	副室長（兼）交通企画係長	宮城 友嘉	
	主任	大場 千華	
	主任	白壁 武憲	

コミュニティバス高瀬線（紅花バス）の運行内容変更について

1. 協議事項の概要

対象路線	コミュニティバス高瀬線（紅花バス）	
協議内容	運行経路の変更及び停留所の追加	
新設理由	運行経路及び停留所を追加することにより、近隣住民の移動手段を確保するため。	
検討経緯	令和3年7月 令和4年8月～9月 9月 9月 10月 11月 12月 令和5年2月～ 4月1日	・高瀬地区よりコミュニティバス高瀬線を下蔦の木町内経由とする運行経路とすることについて要望 ・下蔦の木町内会全世帯へアンケート調査を実施（利用ニーズの確認） ・コミュニティバス高瀬線利用者へアンケート調査を実施（経路変更に伴う運行時間延長についての意向確認） ・公安委員会と意見交換 ・高瀬地区コミュニティバス運行協議会※にて承認 ※コミュニティバス高瀬線の運行内容や利便性向上に関して協議することを目的に、高瀬地区振興会、町内会長及び小中学校等から構成 ・地域公共交通会議（本日） ・運行事業者の選定 ・運行内容の周知 ・新たな運行内容での運行開始

2. 変更後のコミュニティバス高瀬線（紅花バス）の概要

※下線部は変更点

ルート	別紙のとおり（一部経路追加及び廃止）
運行距離	通学便 7.3km 1便 <u>36.3km（1.6km増）</u> 3便 <u>22.8km（1.6km増）</u> 4便 <u>36.3km（1.6km増）</u>
停留所数	<u>29箇所（1か所増）</u> （別紙のとおり）
自由乗降	「高沢」停留所～「法伝寺前」停留所付近（別紙のとおり） <u>【追加】新たに追加した経路 【廃止】経路変更に伴い廃止する経路</u> ※交通量の多い一部の道路を除く ※交通量の多い交差点の5メートル以内の区間については自由乗降できない区間とする。
運行日	月～金曜日（12/29～1/3、祝日を除く）
運行車両	通常便：特定大型車（乗車定員10名） 増発便（定員を超える乗車があった場合）：小型車（乗車定員5名以下） 車両の定期点検及び事故・故障時：特定大型車（乗車定員10名）または小型車（乗車定員5名以下）
運行本数	5便 午前7時40分～午後5時40分
所要時間	通学便20分 <u>1便111分（5分増）</u> 2便31分 3便108分 4便108分
運賃	1乗車 大人(中学生以上) 200円、小学生100円、未就学児 無料 障がい者等100円
運行事業者	未定（プロポーザル方式にて運行事業者を選定。）
備考	・道路運送法第4条に基づく一般乗合旅客自動車運送事業。 ・自由乗降区間の追加に関して、交通上の問題がないか公安委員会と協議を行ったところ、支障はないとの意見を得ている。



【廃止区間】103m

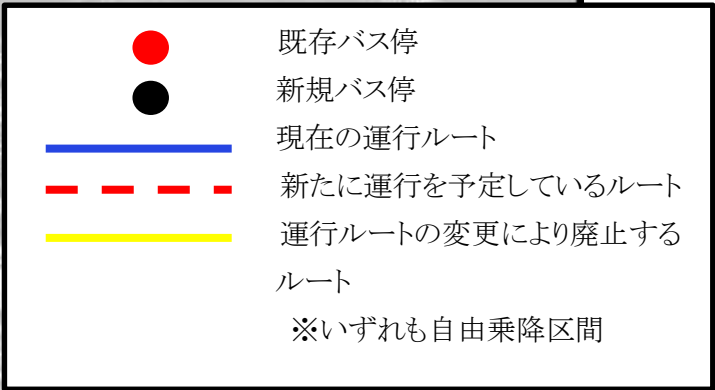
【追加区間】1.7 km

【新規バス停】下葛ノ木公民館前停

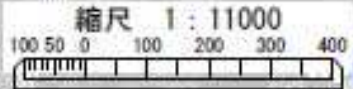
新規バス停追加場所



※R1.9月までバス停が設置されていた場所に設置



至 べにばなトンネル



山形市地域公共交通計画

5年間の取組

※★は新規取組

5年間の基本方針

まちづくりの将来像を見据え、様々な移動ニーズに対応しながら機能的・効率的で、わかりやすく使いやすい公共交通を順次整備します

目標1まちづくりと連動した公共交通ネットワークの構築

施策1-1交通軸の構築

大骨格：★新駅の検討、鉄道駅のバリアフリー化
中骨格：★バス路線の経路・ダイヤ見直し
バス待ち環境の改善
小骨格：★南・北くるりんの導入
神経系：★タクシー等を活用したモデル事業の実施

＜モデル事業について＞
市内各地区における様々な交通課題の解決に向けて、新しい交通サービスの導入等に関するモデル事業を実施する。また、同様の課題を抱える地区へ取組みを拡大する。

◆市街地循環バスの試行

①滝山地区
市街地南部で都市機能が集積している山大医学部周辺、吉原地区を運行経路と想定するほか、芸工大学生や高齢者などの買物不便を解消するため、滝山地区を中心に南くるりんの導入を進める。
なお、北くるりんは馬見ヶ崎・嶋地区や県立中央病院へのアクセスを想定するが、連携中枢都市圏における他市町からのニーズも高いことなど検討課題も多いため、様々な角度から検討を重ねる。

◆タクシー等を活用した新しい交通サービスの導入
次のような着目点のもとでモデル事業を行う

②楯山地区：
鉄道駅（楯山駅）との結節に着目した交通サービス

③金井地区西部：
人口が集中する地区であり、かつニーズの高い目的地が複数想定される場合に着目した交通サービス

④村木沢地区：
郊外からの移動ニーズに着目した交通サービス

目標2徒歩や公共交通などで楽しめる中心市街地の移動環境づくり

施策2-1中心市街地の暮らしやすさにぎわいに資する移動環境の形成

★中心市街地におけるカーシェア・シェアサイクルの導入
歩行者空間整備と連動したバス待ち環境や案内表示の改善・バス利用環境の構築
ベニちゃんバス東くるりん・西くるりんの運行（再掲）

施策2-2公共交通を利用した中心市街地へのお出かけの促進

★商店街等と連携した割引やポイントサービスの導入検討
★観光客向け周遊環境の向上（再掲）

指標

ベニちゃんバス東くるりん・西くるりんの利用者数
中心市街地における上屋やベンチの設置などのバス待ち環境の整備件数

目標3公共交通による生活実態に即した身近な移動の支援

施策3-1郊外地域における新たな公共交通の導入等による生活交通の確保

★タクシー等を活用した新たな公共交通の導入（モデル事業の実施）（再掲）
★福祉輸送やその他輸送手段との連携
郊外と中心部を結ぶコミュニティバス等の運行

施策3-2持続可能な公共交通事業の経営

路線バス赤字路線への運行補助
★タクシー等を活用した新たな公共交通の導入（モデル事業の実施）（再掲）

施策3-3高齢者への支援や学生の足の確保

★高齢者や免許返納者等への支援の見直し、★学生の足の確保

指標

日常の外出における利用交通手段のうち自家用車等の割合
外出を控えている理由として交通手段がないと答えている高齢者の割合
公共交通への公的資金投入額
公的資金が投入されている公共交通事業の収支率

目標4公共交通のわかりやすく・使いやすい利用環境の形成

施策4-1MaaSの導入

★MaaSの導入
★山形県地域公共交通プラットフォームとの連携
★交通系ICカード導入による利便性向上

施策4-2便利で楽しい公共交通のPR、公共交通利用に向けた意識醸成

★スマートフォンアプリ等による利用案内・SNSによる情報発信
わかりやすいバス案内情報システム
★若者向けPRの推進
観光地と協働したPRイベントの実施
公共交通利用のきっかけづくり・啓発活動

施策4-3誰もが安心して使える利用環境づくり

★感染症に強い公共交通利用環境の整備
バリアフリー車両、環境にやさしい車両、ユニバーサルデザインタクシー等の導入検討

指標

路線バス等の利用者に占める交通系ICカード利用者の割合

指標

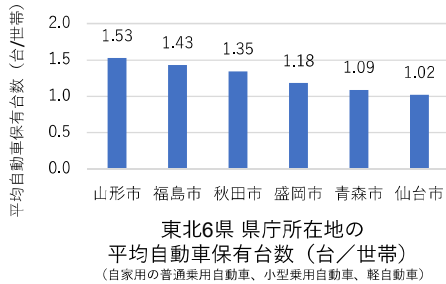
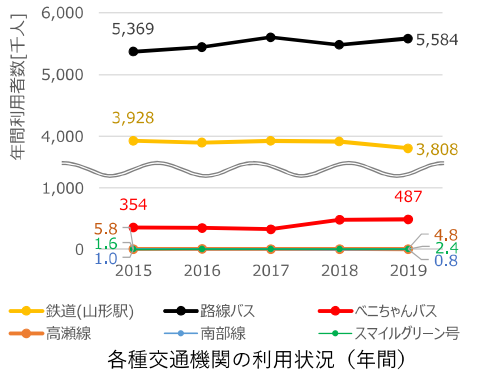
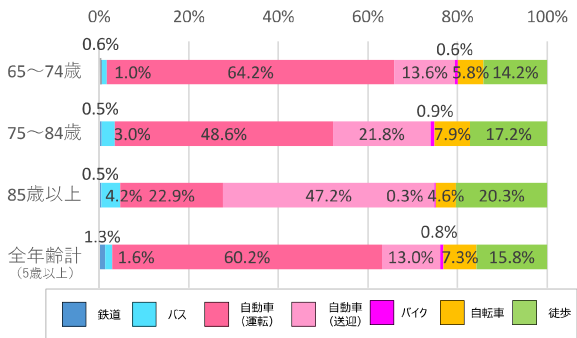
公共交通の利用者数

計画推進にあたって

外部評価を得ながら、全体最適化の視点から不断にPDCAサイクルによる見直しを行う

4

山形市地域公共交通計画 概要版		資料2
計画概要		
策定の主旨	本計画は、山形市都市計画マスタープラン及び山形市立地適正化計画において示されている将来のまちづくりを支える、誰もが快適に移動できる環境を構築するため、地域にとって望ましい公共交通ネットワークビジョン及び地域の移動手段を確保・充実するための取り組みをとりまとめたもの	
計画期間	令和3年度（2021年）～令和7年度（2025年）【5年間】	計画区域 山形市全域
現状の課題と方向性		
多様な移動ニーズへの対応	方向性	・高齢者は市内に広く居住し、免許保有率が高く、移動における自動車の割合も65歳以上で7割 ・高齢者の事故が増加 ・免許返納後の不便さへの不安 ・免許非保有高齢者の外出率は、免許保有者と比べて低い ・車がない若年層は親等の車による送迎が多い ・車がない一人暮らしの学生は通学や買物等の移動が不便 ・蔵王や山寺への観光移動、中心市街地における観光移動ニーズも多い ・車を運転できない障がい者は日常的な移動が不便
		●高齢者（免許返納者を含む）の通院や買物、若年層の通学などのそれぞれのニーズに応じた公共交通の整備による多様な移動手段の充実 ●待ち合い環境の改善や、乗降しやすい車両の導入（バリアフリー） ●地域のニーズを把握している生活支援コーディネーター等の福祉関係機関との連携
利用が伸びない公共交通サービス	方向性	・鉄道の利用者数は減少傾向で、分担率は全体の1％程度 ・路線バス利用者数は近年横ばい又は微増。一方で赤字路線への補助金額は増加傾向 ・コミュニティバスはベニちゃんバスを除き利用者数は減少傾向。運行経費に係る市の負担は増加傾向 ・福祉輸送や病院、商業施設の送迎バスなど様々な移動手段が存在
		●公共交通の利便性向上（待ち時間・乗車時間の短縮、分かりやすい情報提供） ●多様な移動サービスの連携強化（公共交通以外の福祉輸送、商業施設や総合病院の送迎バス等） ●先進技術導入による利用満足度の向上（ＩＣカードによるキャッシュレス化など先進技術の導入、感染症に強い公共交通の実現とガイドライン遵守）
日常生活における自家用車の多用	方向性	・山形市の自家用車保有率は、東北6県の県庁所在地の中で一番高い。 ・自家用車を多用することによる公共交通利用者の減少は、減便や路線廃止などに繋がり、一層公共交通利用者が減少し「負のスパイラル」化 ・運輸部門のCO₂排出量の内、自家用車は46％
		●公共交通も含めた移動手段の多様化（公共交通の優位性強化、自家用車より劣る点の解消、徒歩や自転車利用による健康増進） ●将来に渡り持続可能な公共交通の充実（移動に係る市民負担の抑制、交通事業者の収益向上、官民の適切な役割分担、公共交通の全体最適化）



現状の課題と方向性を踏まえ、山形市の特性、都市計画、既存の公共交通資源を総合的に勘案し、目指すべき公共交通ネットワークの在り方として、「交通軸」の形成と、「交通結節点」を整備する。これにより移動ニーズにきめ細やかに対応した効率的で効果的な公共交通の実現を目指す。

ネットワークは概ね15年後の2035年の構築を目指す。本計画の計画期間（2021年～2026年）ではネットワークの実現に向け当面実行すべき具体的な施策を示す。

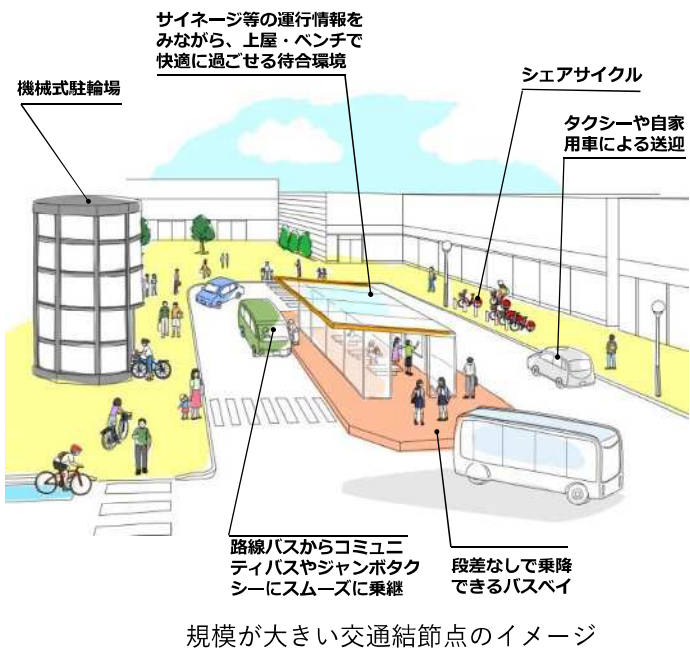
(交通軸)

輸送量に応じた骨格のレベル (大) ↑ ↓ (小)	骨格	概要
	大骨格	【鉄道】南北及び東西に延び、山形市における交通ネットワークの最も大きな骨格となる鉄道路線 【高速バス】山形市の中心部と仙台市等の他都市を結ぶ高速バス
	中骨格	【路線バス（幹線）】中心部と周辺の主要な拠点を結ぶ、交通ネットワークの次点骨格を担う幹線となる路線バス
	小骨格	【路線バス（その他）】鉄道駅や交通結節点へのアクセスを担保する「中骨格」以外の路線バス 【コミュニティバス（市街地循環型）】鉄道駅や主要な拠点を中心として市街地を循環するコミュニティバス
	神経系	【コミュニティバス（その他）】郊外から市街地または近隣の交通結節点へアクセスするコミュニティバス 【タクシー等を活用した新しい交通サービス】郊外の集落にある自宅などと最寄りの交通結節点をドア・ツー・ドアで結び、タクシーや福祉輸送など様々な輸送資源を活用した新しい移動サービス

従来の鉄道、バスやタクシーといった既存の公共交通を活用した上で、必要に応じて自家用有償旅客運送やスクールバス、福祉輸送、病院・商業施設などの既存の民間事業者による送迎サービス等の地域の多様な輸送資源についても最大限活用し、移動において多様な選択を可能とする。

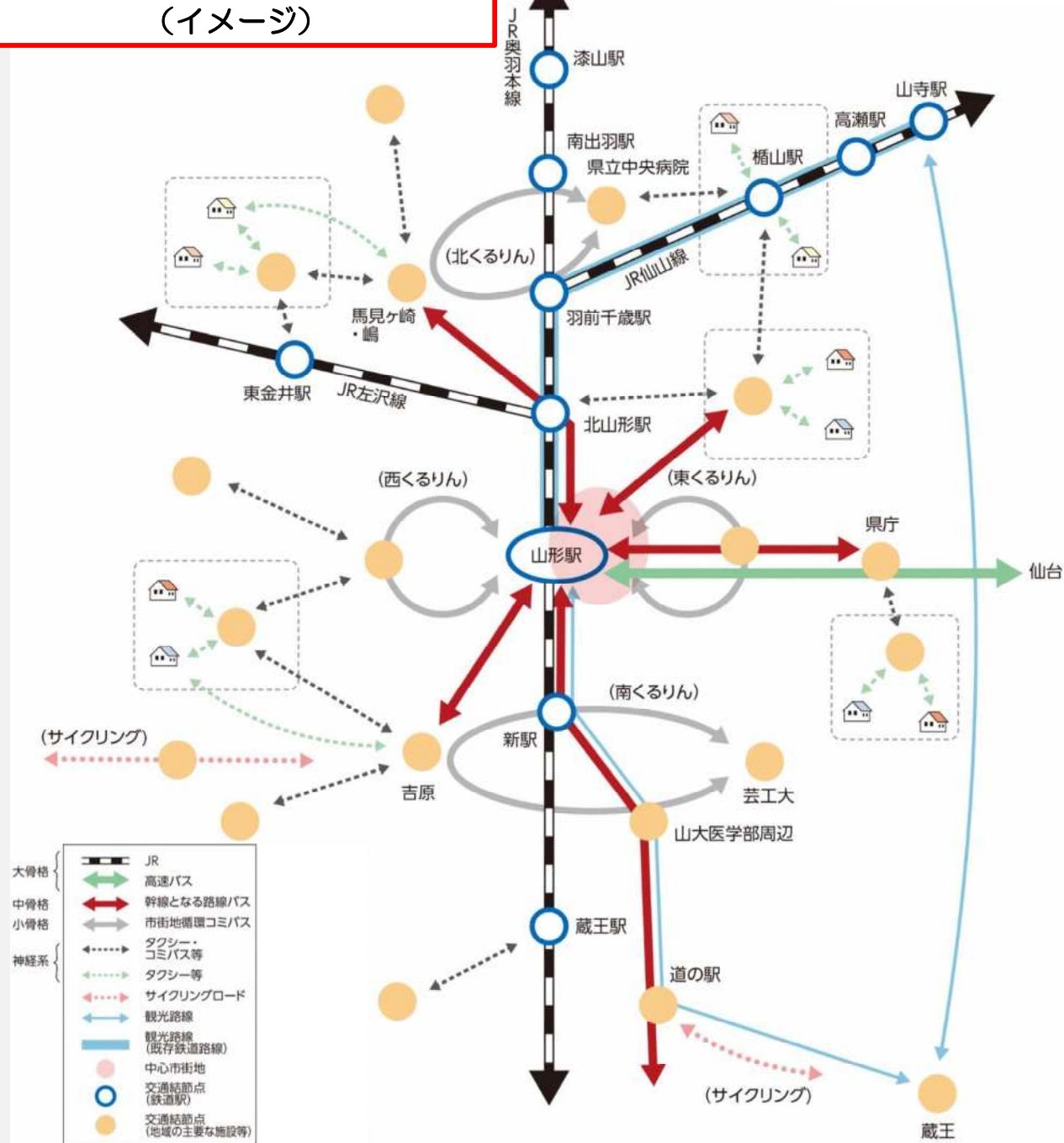
(交通結節点)

定義	鉄道やバスに加え、ウォーキングロードやサイクリングロードなど複数の交通手段が交差し、乗り換えの規模や周辺の状況等から重要な拠点となる場所や施設
想定する場所	鉄道駅 地域の主要な施設等（公民館、コミュニティセンター、総合病院、大学・高校周辺、スポーツ施設、公園、商業施設、道の駅など） その他（山形駅東口ビブレ跡地など、今後の土地利用検討と併せて場所を検討） ※乗り換えの規模や周辺の状況等により場所を設定する。
担うべき機能の例	乗り換え機能（快適なバス待ち環境、運行情報提供、駐車場など） 拠点形成機能（地域の中心となる場） ランドマーク機能（シンボル性） ※乗り換えの規模や周辺の状況等により機能を設定する。



公共交通ネットワークビジョン
(イメージ)

15年後の将来像

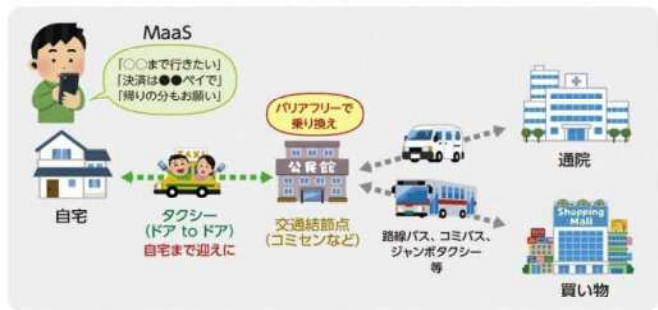


新しい公共交通の利用イメージ

様々な交通手段を交通結節点で乗継ぎ、自宅から商業施設・総合病院等、市内の様々な地域に移動できる環境を構築する。

交通結節点ではバリアフリーで円滑な乗継ぎが可能となり、自宅から最寄りの交通結節点までは、タクシー等を活用してドア・ツー・ドアで快適にアクセスできる。

また、MaaS導入によりスマートフォンアプリ等で、利用する複数の交通手段を一括で検索・予約・決済ができるなど、利便性の高い新たな公共交通の利用環境構築を目指す。



新しい公共交通の利用イメージ

さらに、技術発展が目覚ましく将来的に普及が見込まれる自動運転技術の公共交通への活用についても併せて検討していく。

山形市地域公共交通計画に基づくモデル事業の進捗について

1 金井地区

① 事業の検討経過

金井地区西部においては一部を除き路線バスが運行しておらず、また、地区内にある東金井駅からも距離があり、特に高齢者の移動手段の確保が必要であったことから、金井地区西部の高齢者をターゲットとしたモデル事業の検討を進めてきた。

検討を進めるなかで判明した、地区の特性に対応する運行形態として、メーター料金で運行するタクシーを活用したモデル事業を実施している。

② 運行内容

名称	金井地区モデル事業実証運行 ※愛称：かなみちゃんタクシー
対象者	金井地区西部（吉野宿、鮎洗、陣場新田、東志戸田、志戸田）在住で 65 歳以上の方
運行形態	一般乗用旅客自動車運送事業 ※メーター料金の一部（一定料金）を運賃として利用者が支払い、差額を市が負担する。 ※「利用できる施設」を複数箇所選定し、自宅と「利用できる施設」間の運行のみを行う。
運行事業者	市内法人事業者（全 11 社）
運行車両	小型タクシー（定員 5 名以下）
運行日	月～金（土日・祝日を除く）
運行時間	午前 8 時～午後 4 時
運行回数	予約に応じて運行
運賃	500 円（片道）
運行期間	令和 4 年 7 月 11 日～令和 4 年 11 月 30 日
利用方法	事前に利用登録を行う。 利用する際は、事前に電話で予約する。（日時や乗り降りする場所等を伝える。）
利用条件	・乗り場若しくはおり場のいずれかが自宅である必要がある。 ・1 回の利用で「利用できる施設」間を運行することはできない ・同じ町内会の利用登録者同士で相乗りが可能。 ※相乗り時、別紙「利用できる施設」は同じである必要があるが、利用登録者それぞれの自宅で乗車・降車が可能。
行先	別紙 1 のとおり

③ 実績

令和 4 年度	運行実績			経費			行先		
	運行便数	延べ利用者数	実利用者数	総メーター料金	利用料金	市負担額	通院	買物	その他
7 月（11 日～）	25 便	35 人	15 人	31,540 円	12,500 円	19,040 円	14 便	7 便	4 便
8 月	25 便	25 人	9 人	34,060 円	12,500 円	21,560 円	18 便	7 便	0 便
9 月	31 便	34 人	15 人	39,160 円	15,500 円	23,660 円	27 便	4 便	0 便
10 月 ※ 14 日時点	6 便	8 人	5 人	7,800 円	3,000 円	4,800 円	6 便	0 便	0 便
合計	87 便	102 人	28 人	112,560 円	43,500 円	69,060 円	65 便	18 便	4 便

※行先は自宅→目的地、目的地→自宅両方を含む

※実利用者数の合計は各月の実績の合計額とは一致しない

2 村木沢地区

① 事業の検討経過

村木沢地区において、路線バス空白地域における住民の交通手段を確保するため、住民アンケートを実施した。また、社会福祉協議会、地域の福祉協力員と移動に困っている方を把握するため福祉マップを作成した。アンケートと福祉マップから対象地域と目的地を選定しモデル事業の検討を進めてきた。

地区特性に対応する運行形態として、近隣の通院・買物に対応した定時定路線型のモデル事業を実施している。

② 運行内容

名称	村木沢地区モデル事業実証運行 ※愛称：あじさいバス
対象者	制限なし ※主に村木沢地区の高齢者がターゲット
運行形態	一般乗合旅客自動車運送（定時定路線）
運行事業者	八千代交通株式会社
運行車両	通常便： 特定大型車（乗車定員 10 名） 増発便（定員を超える乗車があった場合）： 小型車（乗車定員 5 名以下） 車両の定期点検及び事故・故障時： 特定大型車（乗車定員 10 名）または 小型車（乗車定員 5 名以下）
運行日	毎週水曜日（ただし年末年始、祝日は運休）
運行本数	6 便 午前 7 時台～午後 1 時台
所要時間	約 50 分
運賃	1 乗車 大人（中学生以上） 200 円 小学生 100 円 未就学児 無料 障がい者等（※） 100 円 ※ 身体障がい者手帳、戦傷病者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳を提示した者（介助の同行者 1 名までを含む）、車椅子利用者（介助の同行者 2 名までを含む）は、上記運賃の半額（10 円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げた額）とする。
運行期間	令和 4 年 9 月 7 日（水）～令和 5 年 3 月 29 日（水）
運行ルート	別紙 2 のとおり
運行距離	約 15km
停留所数	7 箇所（別紙 2 のとおり）
自由乗降	悪戸地区～若木地区（別紙 2 のとおり） ※交通量の多い一部の道路を除く ※交通量の多い交差点の 5 メートル以内の区間については自由乗降できない区間とする。

③ 利用実績

	日数	利用者	運行経費	運賃収入	増発便数
9 月	4	79	111,100	6,400	1
10 月	4	57	94,600	7,100	0
合計	8	136	205,700	13,500	1

1 日あたり （人）	1 便あたり （人）
19.8	3.3
14.3	2.4
17.0	2.8

3 楯山地区

① 事業の検討経過

楯山地区の移動ニーズ等を把握するため、地区の全世帯を対象としたアンケートを実施した。この結果や福祉マップから見えた移動困難者の実態等を踏まえながら、新しい公共交通の目的地をスーパー（各町内会から行けるスーパーは1店舗に限定）や、交通結節点として地区内にある楯山駅とすることで仙山線の利用と市街地への外出を促進する。

ただし、楯山地区内の風間町内会及び青野町内会については、町内を路線バスが運行していることから、新しい公共交通を導入する前に既存の路線バスの利活用についてバス事業者及び地区検討会組織にて検討することとし、実証実験については十文字町内会、新開町内会、青柳町内会の3町内会で行うことで検討・調整を行っている。

② アンケート結果

- 買物先は、ヨークベニマル落合店、ヤマザワ漆山店が多い。
- 通院先は、総合病院では済生館、県立中央病院、東北中央病院が多く、個人病院では地区内の安孫子内科医院や近隣地区の伊沢内科胃腸科医院、深瀬内科医院などが多い。
- 移動に困っているのは65歳以上が多い。
- 移動に困っている方で地区内の鉄道駅（楯山駅・南出羽駅）を1ヶ月に1回以上利用していると回答の方が約2割。どんな環境が整えば鉄道を利用するかについては、「そもそも鉄道を利用する必要がない」という回答が約3.5割で最も多く、次いで「駅付近への駐車場や駐輪場の整備」、「バスやタクシー等による自宅付近と駅との送迎サービス」という回答が多かった。

③ スケジュール

令和4年度 継続検討

令和5年度 実証実験（予定）

4 滝山地区

① 事業の検討経過

国道13号東側の地域にあった商業施設や銀行などの都市機能の多くが撤退したことから、滝山地区住民全世代において、通院や買い物のための新たな公共交通が求められている。都市機能が集積している地区と滝山地区などを結ぶ運行経路を想定し、南部循環バスの導入に向けて検討を進めている。

- 検討会（国道13号東側町内会長など）での検討。
- 地区住民と東北芸術工科大学の学生（芸工大生）を対象にアンケートを実施。
- 福祉関係者や芸工大生との意見交換を実施。

② アンケート結果

(1) 滝山地区住民アンケート（R3.9月実施）

- 高齢者を中心に「買い物」「通院」「金融機関」を目的とした需要が高い。
- 特にヤマザワ松見町店、マックスバリュ青田店、イオンモール山形南を目的地とした利用希望が多い。

(2) 芸工大生アンケート（R3.10月実施）

- 回答者の8割以上が利用したいと回答。
- 目的の多くは「買い物」「外食」で、イオンモール山形南を目的地とした利用希望が多い。

③ スケジュール

令和4年度 継続検討

令和5年度 運行実験（予定）

利用できる施設

モデル事業（金井地区）詳細図

別紙1

This map illustrates the Kanai District Model Project, highlighting bus routes and various facilities. The map includes labels for towns such as Kanai (鮎洗), Yagoroshi (吉野宿), and Kanai Central (山形中央). It also shows major roads like National Route 112 and local roads like Star Road (星降る道). Numbered circles (1-56) indicate specific locations where bus routes are established or planned. Various facilities are marked, including clinics, hospitals, and community centers.

利用施設一覧

買い物	通院	金融機関
①イオン山形北店	⑬山形済生病院	④③山形銀行馬見ヶ崎支店
②フードセンターたかき松町店	⑭のだ耳鼻咽喉科クリニック	④④きらやか銀行江俣支店
③ヤマザワ北町店	⑮東海林皮膚科医院	④⑤山形信用金庫江俣支店
④おーばん山形嶋店	⑯鈴木クリニック	④⑥江俣郵便局
⑤カワチ薬品山形北店	⑰江俣ささら歯科クリニック	④⑦JA山形東金井支店
⑥ヨークベニマル山形嶋店	⑱山形北内科神経外科クリニック	④⑧鮎洗郵便局
⑦ダイユーエイト山形嶋店	⑲杉山内科クリニック	④⑨JAやまがた山辺支店
⑧ドンキ・ホーテ山形嶋南店	⑳ティーズデンタルオフィス	⑤⑩山辺郵便局
⑨しまむら嶋店	㉑ブレインクリニック妻沼	⑤⑪山形銀行山辺支店
⑩ケースデンキ山形北本店	㉒板坂胃腸科内科クリニック	⑤⑫きらやか銀行山辺支店
⑪やまや瀬波店	㉓かわぞえ嶋北泌尿器科内科クリニック	
⑫ツルハドラッグ山形瀬波店		公共施設・交通機関
⑬ショッピングプラザベル	㉔矢吹医院	⑤⑬陣場口バス停
⑭ツルハドラッグ山辺東店	㉕タクヤデンタルクリニック	⑤⑭金井交流センター
⑮コメリ山辺店	㉖嶋南つちや整形外科	⑤⑮東金井駅
⑯ツルハドラッグ山辺店	㉗清水歯科医院	⑤⑯羽前山辺駅
⑰おーばん山辺店	㉘坂本デンタルオフィス	

路線バス

0 250m 500m 1km

利用できる施設

モデル事業（金井地区）詳細図

別紙1

This figure is a detailed map of the Kanai area, titled "Model Project (Kanai Area) Detailed Map". It shows the locations of various facilities and transportation routes. The map includes labels for towns such as Kanai, Yaguchi, and Kanai New Town. Numerous facilities are marked with numbers corresponding to the legend. The legend is divided into four categories: Shopping (買い物), Medical Care (通院), Financial Services (金融機関), and Public Infrastructure & Transportation (公共施設・交通機関). A scale bar at the bottom right indicates distances up to 1km.

買い物	通院	金融機関	公共施設・交通機関
①イオン山形北店	⑬山形済生病院	④山形病院	③陣場口バス停
②フードセンターたかき桧町店	⑭のだ耳鼻咽喉科クリニック	⑤あやこ歯科医院	④金井交流センター
③ヤマザワ北町店	⑮東海林皮膚科医院	⑥白壁内科クリニック	⑤東金井駅
④おーばん山形嶋店	⑯鈴木クリニック	⑦やまかわ整形外科	⑥羽前山辺駅
⑤カワチ薬品山形北店	⑰江俣ささはら歯科クリニック	⑧金井たかはし眼科	
⑥ヨークベニマル山形嶋店	⑱嶋北内科神経外科クリニック	⑨やまのべ整形外科	
⑦ダイユーエイト山形嶋店	⑲杉山内科クリニック	⑩和敬会クリニック	
⑧ドンキ・ホーテ山形嶋南店	⑳ティーズデンタルオフィス	⑪ひでたま胃腸眼科クリニック	
⑨しまむら嶋店	㉑プレイングリニック妻沼	⑫やまのべ藤田クリニック	
⑩ケースデンキ山形北本店	㉒板坂青腸科内科クリニック		
⑪やまや瀬波店	㉓かわぞえ嶋北泌尿器科内科クリニック		
⑫ツルハドラッグ山形瀬波店	㉔矢吹医院		
⑬ショッピングプラザベル	㉕タクヤデンタルクリニック		
⑭ツルハドラッグ山辺東店	㉖嶋南つちや整形外科		
⑮コメリ山辺店	㉗清水歯科医院		
⑯ツルハドラッグ山辺店	㉘坂本デンタルオフィス		
⑰おーばん山辺店			

利用できる施設

別紙1

モデル事業（金井地区）詳細図

The map displays the Kanai area with various facilities and transportation routes. Key locations include Kanai, Yaguchi, Kishino, and Kanai. Major roads shown are National Route 112 and local roads. Facilities are marked with numbers corresponding to the lists provided.

利用施設一覧

買い物	通院	金融機関
①イオン山形北店	⑬山形済生病院	④山形銀行馬見ヶ崎支店
②フードセンターたかき松町店	⑭のだ耳鼻咽喉科クリニック	⑤きらやか銀行江俣支店
③ヤマザワ北町店	⑮東海林皮膚科医院	⑥山形信用金庫江俣支店
④おーばん山形嶋店	⑯鈴木クリニック	⑦江俣郵便局
⑤カワチ薬品山形北店	⑰江俣ささら歯科クリニック	⑧JA山形東金井支店
⑥ヨークベニマル山形嶋店	⑱嶋北内科神経外科クリニック	⑨鮎洗郵便局
⑦ダイユーエイト山形嶋店	⑲杉山内科クリニック	⑩JAやまがた山辺支店
⑧ドンキ・ホーテ山形嶋南店	⑳ティーズデンタルオフィス	⑪山辺郵便局
⑨しまむら嶋店	㉑ブレインクリニック妻沼	⑫山形銀行山辺支店
⑩ケースデンキ山形北本店	㉒板坂胃腸科内科クリニック	⑬きらやか銀行山辺支店
⑪やまや瀬波店	㉓かわぞえ嶋北泌尿器科内科クリニック	
⑫ツルハドラッグ山形瀬波店		公共施設・交通機関
⑬ショッピングプラザベル	㉔矢吹医院	⑭陣場口バス停
⑭ツルハドラッグ山辺東店	㉕タクヤデンタルクリニック	⑮金井交流センター
⑮コメリ山辺店	㉖嶋南つちや整形外科	⑯東金井駅
⑯ツルハドラッグ山辺店	㉗清水歯科医院	⑰羽前山辺駅
⑰おーばん山辺店	㉘坂本デンタルオフィス	

路線バス

0 250m 500m 1km

買い物	通院	金融機関
①イオン山形北店	⑬山形済生病院	④山形銀行馬見ヶ崎支店
②フードセンターたかき桧町店	⑭のだい耳鼻咽喉科クリニック	④きらやか銀行江俣支店
③ヤマザフ北町店	⑭東海林皮膚科医院	④山形信用金庫江俣支店
④おーばん山形嶋店	⑭鈴木クリニック	④江俣郵便局
⑤カワチ薬品山形北店	⑭江俣ささはら歯科クリニック	④JA山形東金井支店
⑥ヨークベニマル山形嶋店	⑭嶋北内科神経外科クリニック	④鮎洗郵便局
⑦ダイユー・エイト山形嶋店	⑭杉山内科クリニック	④JAやまがた山辺支店
⑧ドンキ・ホーテ山形嶋南店	⑭ティーズデンタルオフィス	④山辺郵便局
⑨しまむら嶋店	⑭ブレインクリニック妻沼	⑤山形銀行山辺支店
⑩ケースデンキ山形北本店	⑭坂板胃腸科内科クリニック	⑤きらやか銀行山辺支店
⑪やまや瀬波店	⑭かわぞえ嶋北泌尿器科内科クリニック	
⑫ツルハドラッグ山形瀬波店	⑭矢吹医院	公共施設・交通機関
⑬ショッピングプラザベル	⑭タカヤデンタルクリニック	⑤陣場口バス停
⑭ツルハドラッグ山辺東店	⑭嶋南つちや整形外科	⑤金井交流センター
⑮コメリ山辺店	⑭清水歯科医院	⑤東金井駅
⑯ツルハドラッグ山辺店	⑭坂本デンタルオフィス	⑤羽前山辺駅
⑰おーばん山辺店		

買い物	通院	金融機関
①イオン山形北店	⑬山形済生病院	④山形銀行馬見ヶ崎支店
②フードセンターたかき桧町店	⑭のだい耳鼻咽喉科クリニック	④きらやか銀行江俣支店
③ヤマザフ北町店	⑭東海林皮膚科医院	④山形信用金庫江俣支店
④おーばん山形嶋店	⑭鈴木クリニック	④江俣郵便局
⑤カワチ薬品山形北店	⑭江俣ささはら歯科クリニック	④JA山形東金井支店
⑥ヨークベニマル山形嶋店	⑭嶋北内科神経外科クリニック	④鮎洗郵便局
⑦ダイユー・エイト山形嶋店	⑭杉山内科クリニック	④JAやまがた山辺支店
⑧ドンキ・ホーテ山形嶋南店	⑭ティーズデンタルオフィス	④山辺郵便局
⑨しまむら嶋店	⑭ブレインクリニック妻沼	⑤山形銀行山辺支店
⑩ケースデンキ山形北本店	⑭坂板胃腸科内科クリニック	⑤きらやか銀行山辺支店
⑪やまや瀬波店	⑭かわぞえ嶋北泌尿器科内科クリニック	
⑫ツルハドラッグ山形瀬波店	⑭矢吹医院	公共施設・交通機関
⑬ショッピングプラザベル	⑭タカヤデンタルクリニック	⑤陣場口バス停
⑭ツルハドラッグ山辺東店	⑭嶋南つちや整形外科	⑤金井交流センター
⑮コメリ山辺店	⑭清水歯科医院	⑤東金井駅
⑯ツルハドラッグ山辺店	⑭坂本デンタルオフィス	⑤羽前山辺駅
⑰おーばん山辺店		

買い物	通院	金融機関
①イオン山形北店	⑬山形済生病院	④③山形銀行馬見ヶ崎支店
②フードセンターたかき桜町店	⑭のだ耳鼻咽喉科クリニック	④④きらやか銀行江保支店
③ヤマザフ北町店	⑮東海林皮膚科医院	④⑤山形信用金庫江保支店
④おーばん山形嶋店	⑯鈴木クリニック	④⑥江保郵便局
⑤カワチ薬品山形北店	⑰江保ささはら歯科クリニック	④⑦JA山形東金井支店
⑥ヨークベニマル山形嶋店	⑱嶋北内科神経外科クリニック	④⑧鮎洗郵便局
⑦ダイユー・エイト山形嶋店	⑲杉山内科クリニック	④⑨JAやまがた山辺支店
⑧ドンキ・ホーテ山形嶋南店	⑳ティーズデンタルオフィス	⑤⑩山辺郵便局
⑨しまむら嶋店	㉑ブレインクリニック妻沼	⑤⑪山形銀行山辺支店
⑩ケーズデンキ山形北本店	㉒坂板胃腸科内科クリニック	⑤⑫きらやか銀行山辺支店
⑪やまや瀬波店	㉓かわぞえ嶋北泌尿器科内科クリニック	
⑫ツルハドラッグ山形瀬波店		公共施設・交通機関
⑬ショッピングプラザベル	㉔矢吹医院	⑤⑬陣場口バス停
⑭ツルハドラッグ山辺東店	㉕タクヤデンタルクリニック	⑤⑭金井交流センター
⑮コメリ山辺店	㉖嶋南つちや整形外科	⑤⑮東金井駅
⑯ツルハドラッグ山辺店	㉗清水歯科医院	⑤⑯羽前山辺駅
⑰おーばん山辺店	㉘坂本デンタルオフィス	



村木沢地区モデル事業（あじさいバス）実証運行の運行経路

別紙 2



山形市 MaaS 導入方針 概要版

MaaS とは

MaaS（Mobility as a Service）とは、モビリティのサービス化のこと。

国土交通省の日本版 MaaS では、一人ひとりの移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の交通手段を最適に組み合わせる検索・予約・決済等を一括で行い、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動環境向上や地域の課題解決にも資する重要な手段としている。

本市では、公共交通のマスタープランである『山形市地域公共交通計画（令和 3 年 3 月策定）』に基づき、様々な移動手段を本 MaaS によって 1 つに束ね、移動目的と結びつけることで、本市が抱える課題の解決を図る。さらに「山形県地域公共交通プラットフォーム」や「交通系 IC カード」等、公共交通の ICT を活用しながらデータとシステムの整備を段階的にを行い、多くの市民や来訪者の移動環境の向上を目指す。

山形市における MaaS の現状

本市では、令和 3 年度から MaaS 導入に関する勉強会や検討会を開催し、庁内関係部署に加え、交通事業者や国、県からも参加いただきながら具体的な検討を開始している。また、山形県において、県内市町村や交通事業者と協働で令和 2 年度から「山形県地域公共交通情報基盤」を整備しており、本市で運行しているコミュニティバス等の路線情報をオープンデータ化している。近隣の仙台市では「仙台 MaaS」の運用を令和 3 年度から開始している。

はじめに

MaaS 導入の目的

本市の公共交通を取り巻く状況として、「高齢者などの不安と多様なニーズへの対応」、「利用が伸びない公共交通サービス」、「日常生活における自家用車の多用」といった様々な課題を抱えている。

特に、自家用車の多用によりさらに低下が懸念される公共交通サービスへの迅速な対応のほか、自家用車の運転が困難な高齢者（免許返納者）の買い物や通院といった日常生活における移動や、自家用車などの移動手段を持たない学生の通学などにおける移動に対する、多様な移動手段の確保と移動サービスの充実が必要である。

このような課題に対応するため、既存の公共交通サービスと ICT 等の新技術を活用した新しい交通サービスを連携し、多様な交通手段の選択を可能とする「MaaS」を導入することで、「自家用車に頼らなくても誰もが快適に移動できる環境の構築」を目指すもの。

導入方針の役割

導入方針では、まちづくり（都市計画、福祉、観光など）との一体性を確保しながら、MaaS 導入の方向性（課題、解決策）と実現のための具体的な取り組みを示している。



対象となる区域

対象区域は、山形市の全域とする。

ただし、山形連携中枢都市圏（山形連携中枢都市圏ビジョン）、仙山生活圏（仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクト）などの広域的な連携についても検討する。



対象となる移動手段

鉄道・バス・タクシー等の公共交通を基本としつつ、福祉輸送や民間送迎サービス、カーシェア・シェアサイクル・マイカーなどとの連携・役割分担も含めて取り扱う。



取り組み期間

期間は、令和 4（2022）年度から令和 8（2026）年度までの 5 年間とする。

なお、社会情勢の変化や関連する法令・制度の変更、上位・関連計画の見直しなどによって、新たな対応が生じた場合は、必要に応じて見直しを検討する。

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
山形市 地域公共交通計画	2021～2025					2026～	
山形市 MaaS導入方針		2022～2026					2027～
		将来像：約15年後を展望					→
		事業：5年間で優先的に実施すべき取り組み					→

MaaS の課題と将来像

課題

山形市の公共交通の現状と方向性を踏まえ、本市における MaaS 導入に向けた課題について、①プラットフォーム、②公共交通サービス、③生活・観光サービス、④広域連携の 4 つの分野に分けて整理した。

- ① プラットフォーム
- ② 公共交通サービス
- ③ 生活・観光サービス
- ④ 広域連携

ターゲット

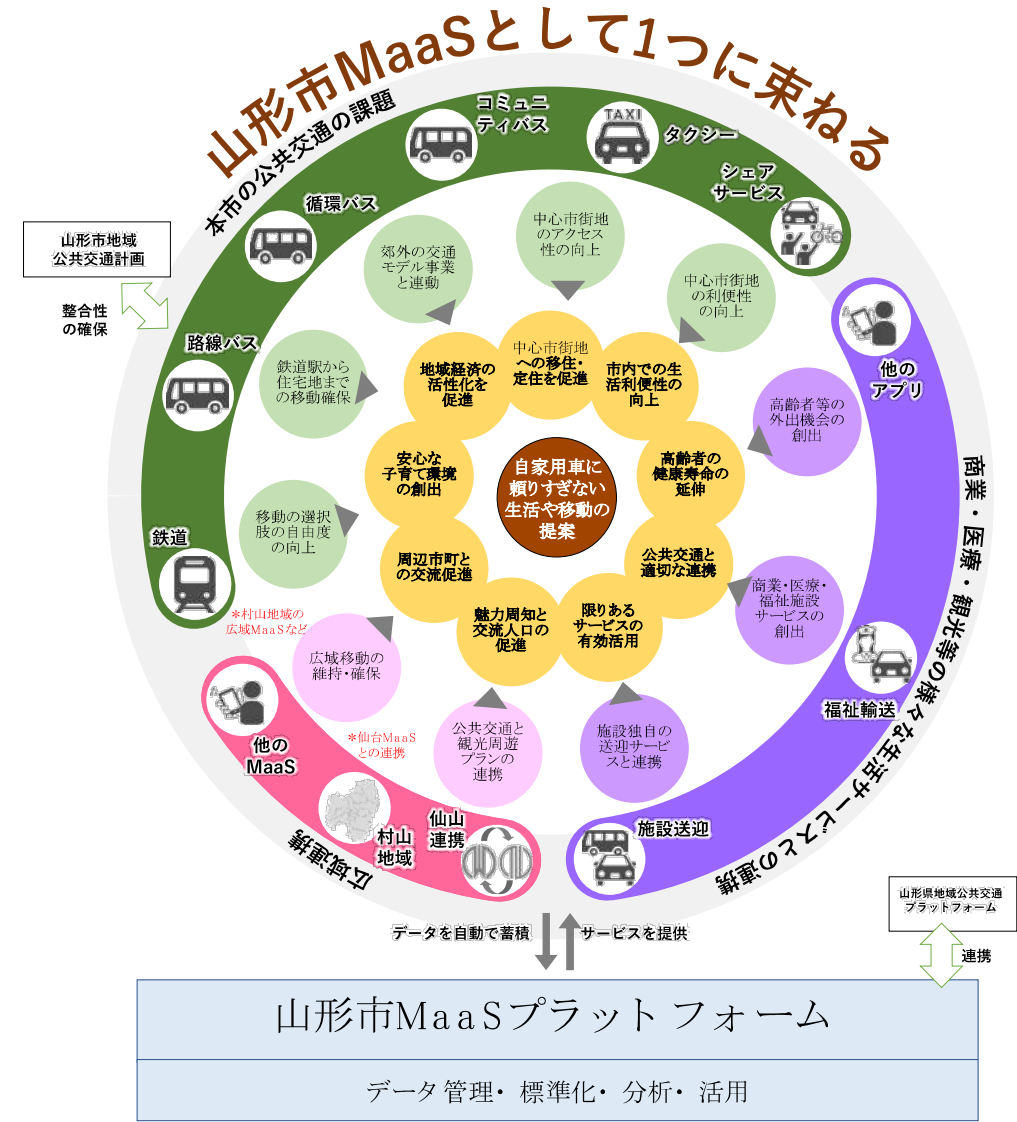
山形市で暮らす・訪れる全ての人を対象とするが、利用者のニーズごとに適したサービスを提供する。

（市民：高齢者、学生、子育て世代、ビジネスなど　来訪者：観光客、学生、ビジネスなど）

山形市 MaaS の将来像

以上を踏まえて、山形市 MaaS の将来像は以下のように定める。

なお、この目指す姿は、山形市地域公共交通計画が定める「公共交通ネットワークビジョン」と同様に、約 15 年後を展望したものである。



具体的な取り組みとスケジュール

将来像（目指す姿）の実現に向けて以下のような取り組み事業を行う。
本市における MaaS 導入の第一段階として、早期に着手できる取り組みを先行トライアル事業として位置付け、検証を行いながら次年度以降の対象・分野拡大を目指す。

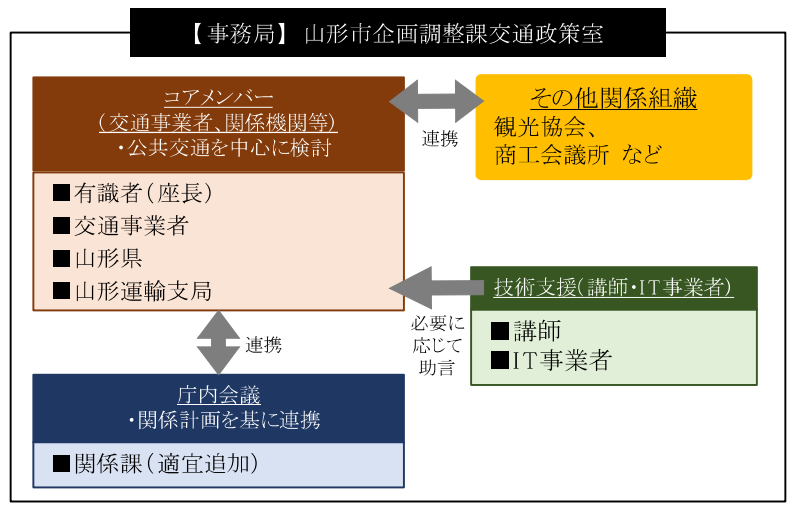
（先行トライアル事業）										
NO.	分野	施策	具体的な取り組み	ターゲット	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	中長期
1	プラットフォーム	①山形市MaaSプラットフォーム・アプリの整備	・山形市MaaSアプリ・プラットフォームの基盤作成 ・山形市MaaSアプリのカスタマイズ ・データ整備	—	・山形市MaaSアプリ・プラットフォームの基盤作成	データ整備（随時対応）				・「山形県地域公共交通プラットフォーム」におけるオープンデータを活用したデジタルサイネージ等のバス案内
		②山形県地域公共交通情報共有基盤との連携	・AIによる効率的な経路検索・空車時間の有効活用 ・「山形県地域公共交通プラットフォーム」におけるオープンデータを活用したデジタルサイネージ等のバス案内	—		AIによる効率的な経路検索・空車時間の有効活用				
		③交通系ICカードの利用拡大	・地域連携ICカードの導入・利用促進・拡大 ・ODデータの取得・分析・活用	—	・地域連携ICカードの導入 ・ODデータの取得	地域連携ICカードの利用促進・拡大（随時対応） ODデータの分析・活用（随時対応）				
2	交通サービス	①中心市街地の更なる利便性向上	・コミュニティバスと路線バスとタクシー等との連携チケットの発行	すべて	・コミュニティバスと路線バスとの連携	・コミュニティバスとタクシーとの連携 ・コミュニティバスと空港シャトルバスとの連携				・シェアサービスとバス等との連携チケットの発行 ・自動運転の実証運行
		②シェアサービスの導入	・シェアサイクルの導入 ・カーシェアとの連携 ・シェアサービスとバス等との連携チケットの発行	すべて	・シェアサイクルの導入		・カーシェアとの連携			
		③新たな公共交通との連携	・公共交通モデル事業との連携 ・AIオンデマンド交通の導入 ・自動運転の導入	山形市民	・公共交通モデル事業との連携	AIオンデマンドの実証運行				
		④タクシーを活用した様々な移動手段の確保	・相乗りタクシーの運行システム構築（予約・利用者マッチング等）	山形市民（郊外在住）			・相乗りタクシーの運行システム構築			
		⑤広域の利便性向上	・鉄道と高速バスとの連携チケットの発行	すべて					・鉄道と高速バスの相互利用チケットの発行 ・高速道路との連携	
3	生活・観光サービス	①施設サービスや居住地、駐車場との連携	・施設で利用可能な割引ポイント・クーポンの発行 ・スクールバスとコミュニティバス等との連携 ・スクールバスのオープンデータ化 ・商業施設送迎バスのオープンデータ化 ・病院送迎バスのオープンデータ化 ・グリーンスローモビリティの導入 ・駐車場、高速道路との連携	すべて	・施設で利用可能な割引ポイント・クーポンの発行 ・スクールバスとコミュニティバス等との連携 ・スクールバスのオープンデータ化		・商業施設送迎バスのオープンデータ化			・病院送迎バスのオープンデータ化 ・グリーンスローモビリティの導入 ・駐車場の連携
		②健康アプリとの連携	・ICシルバー定期券のデータ分析 ・SUKSK健康アプリとの連携	山形市民（高齢者）	ICシルバー定期券のデータ分析（随時対応）					・SUKSK健康アプリとの連携
		③観光資源・観光事業者との連携	・AI動向分析によるモデルコースの提案 ・観光ガイドのオンライン化 ・観戦・鑑賞と交通サービスの連携チケットの発行 ・アプリケーションの多言語化	観光客等		・AI動向分析によるモデルコースの提案		・観光ガイドのオンライン化	・観戦・鑑賞と交通サービスの連携チケットの発行	・アプリケーションの多言語化
4	広域連携	①仙台市との連携	・仙台MaaSとの連携 ・仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクトとの連携	すべて			・仙台MaaSとの連携			・仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクトとの連携
		②村山地域（6市7町）との連携	・山形県地域公共交通計画との連携 ・連携中核都市圏の取り組みと連携	山形市民 村山地方住民	山形県地域公共交通計画との連携（随時対応）					・連携中核都市圏の取り組みと連携
		③その他MaaSとの相互連携	・JAL MaaSとの連携 ・TOHOKU MaaS（JR東日本）との連携	山形市民 観光客等	・JAL MaaSとの連携		・TOHOKU MaaSとの連携			

推進体制・今後の進め方

コンソーシアムの設立

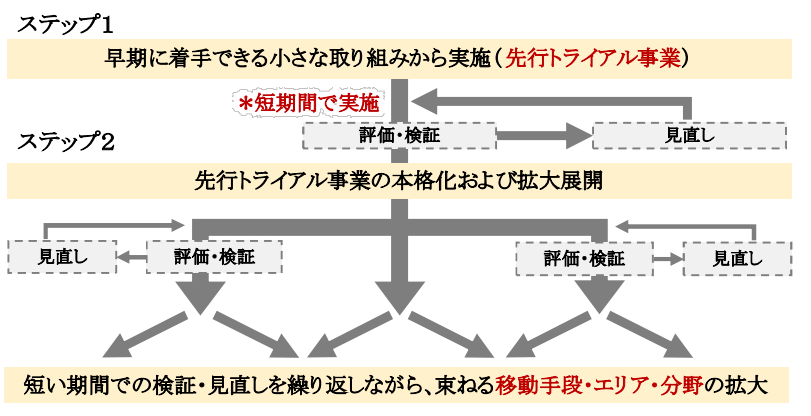
山形市 MaaS を効果的かつ効率的に提供・運営するため、公共交通（静的・動的データおよび予約・決済データ）を主として議論を行うコンソーシアムを設立する。コンソーシアムは、導入方針の策定に関わったコアメンバーを中心として、必要に応じ他のメンバー（関係課・ICT 企業・経路検索事業者・交通以外サービスなど）を加えながら、施策の実施体制を整える。

なお、本導入方針全体の達成目標については、上位計画である「山形市地域公共交通計画」に準ずるものとするが、事業の評価・検証を行うため、各事業の事業計画において実施目的を整理するとともに、導入効果・目標の設定を行う。



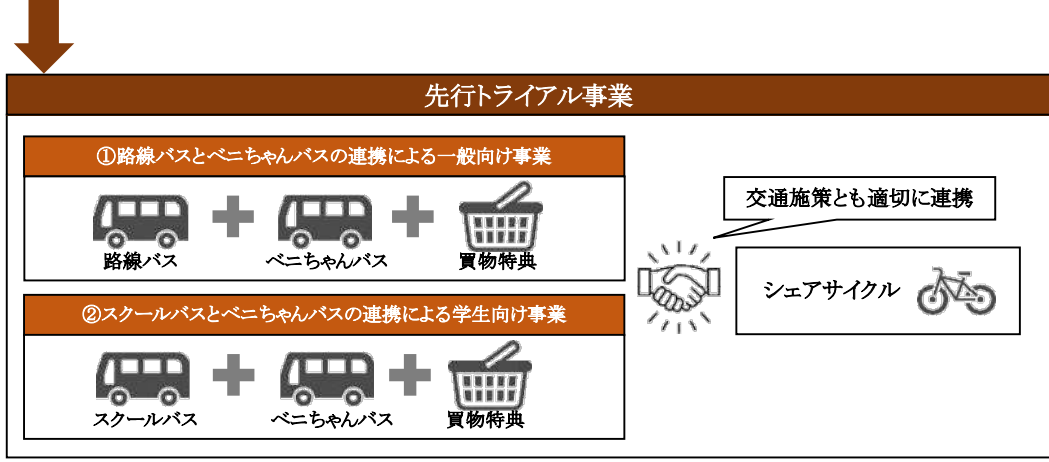
取り組みのステップ

事業の推進にあたっては、下図に示す取り組みのステップに沿って早期に着手可能なものから順次実施するものとし、評価・検証・見直しを行いながら取り組みを拡大する。



先行トライアル事業

市民の様々な移動を支えることを目的に、「スマートフォン・インターネットへの親和性」や「公共交通の利用ニーズ」の高い若者をメインターゲットとしつつ、高齢者や子育て世帯なども対象とし、本市が運行するコミュニティバスと路線バス、大学スクールバスと連携することなどで市内の移動利便性と回遊性を高めることをメインの取り組みとする。加えて、補足的な取り組みとして、シェアサイクルによる中心部の細やかな移動手段の提供を検討する。また、移動だけでなく、市内の商業施設等の活性化を目的として、利用者に買物時の特典を付与することも検討する。



山形市コミュニティサイクル導入事業について

市民の日常利用や来訪者の観光利用など中心市街地を核とした移動環境の向上はもとより、脱炭素型のライフスタイルへの転換を図るため、山形駅や山形市役所など鉄道や路線バスなどの既存公共交通が接続する主要な交通結節点のほか、多くの人が訪れる施設や大学等にコミュニティサイクルを設置するもの。更に、山寺を訪れる観光客を対象として、山寺地区内の回遊性の向上を図るため、山寺駅付近にもサイクルポートを設置する。

▼やまぎん県民ホール



1 事業内容

① 車両（電動アシスト自転車）導入数

種類：Panasonic「J コンセプト」、色：ダークリリーパープル

台数：180 台（現在 85 台、今年度中に 95 台増車予定）

② サイクルポート（駐輪場）設置数

40 箇所（現在 11 箇所、今年度中に 29 箇所増加予定）

<サイクルポート一覧>

- ・山形駅東口交通センター前 ・山形市役所西側駐輪場
- ・やまがたクリエイティブシティセンターQ1 ・山形まるごと館紅の蔵
- ・やまぎん県民ホール ・山形美術館前 ・ほっとなる広場公園 ・東北芸術工科大学
- ・山形県庁前 ・立谷川河川公園山寺緑地 ・山形城三の丸土塁跡前

③ 利用料金

従量料金：50 円／15 分（1,600 円／24 時間上限）

定額料金：1,000 円／日

④ 利用期間

10 月～3 月末までの 6 ヶ月間 R4 年度事業

2 導入スケジュール

令和 4 年 10 月 3 日～ 1 年目サービス開始（10 月～3 月末）

令和 5 年 4 月 1 日～ 2 年目サービス開始（4 月～3 月末）

3 事業者概要

①事業者 ecobike 株式会社（APAMAN グループ）

②運営実績 ・姫路市:H28.7～R5.3 ・福島市:H28.4～R5.3 ・岐阜市:R4.1～R8.3

・つくば市:R3.5～R6.10 ・山口市:R2.12～R5.1 ・前橋市:R2.12～R5.4 等

2022年10月3日 AM10:00 本格運用開始

山形市 コミュニティ サイクル

お客様サポート窓口

☎ 03-5308-0406
(7:00~21:00 受付)

受付時間外は、アプリの通知機能
からご連絡をお願いします。

実施主体 山形市
運営主体 ecobike株式会社



専用HPはこちら

料金表

クレジットカード・キャリア決済



docomo SoftBank

※auは今後導入予定

従量料金		定額料金
15分毎	24 時間上限	1 日
50 円	1,600 円	1,000 円

クレジットカード・キャリア決済選択時の利用料金は、
後日自動引き落としされます。
利用後のお支払い手続きは不要です。

1日定額プラン利用方法

- 1 アプリメニュー「プラン・決済情報」をタップ
- 2 「プランへの加入・解約」をタップ
- 3 「1日定額プラン」を選択
- 4 注意事項を確認して、「加入する」をタップ

一時駐輪



自転車を一時駐輪する際は、
鍵を閉めてください。



利用を再開する際は、【解錠】
をタップすると鍵が解錠します。



利用方法



1 初めてご利用の方

専用アプリ「ecobike」をインストールし会員登録を行ってください。

2 借りる

サイクルポートで、【借りる】をタップしてカメラを立ち上げ、自転車の鍵についている QR コードを読み取ると、鍵が自動で解錠します。

※アプリ利用時は、Bluetooth® と位置情報を ON にしてください。

※「1 日定額プラン」を選択する場合は、事前にアプリからプランへ加入してください。

※スマートフォン1台につき、乗車できる自転車は1台です。

3 返却する

サイクルポートに駐輪し、自転車のカギを閉めてください。その後、アプリで【返す】をタップし、【返却に成功しました】と表示されれば返却完了です。



アプリで「返す」ボタンをタッチして返却を完了しないと一時駐輪扱いとなり、利用時間は継続されます。

※自転車は裏面マップのどのサイクルポートでも返却が可能です。

※各サイクルポートごとに返却できる自転車数に限りがあるので、事前にアプリの「ステーション詳細」から駐輪状況を確認してください。



1



2



3



A cartoon illustration of a young girl with a green headband featuring a yellow starburst, a blue dress with a pink bow, and red shoes. She is holding a yellow flag with the Chinese characters '中国' (China) on it. The background is a solid pink color.

MAP

